OLT Innovator, Hirano Logistics
新しい輸送の形を提案します。

96インチULD 4台搭載
セミ・トレーラー車

+1 快走中！

●フレイターサイズのコンテナの高さに対応
●車軸を1軸にすることで"大型車区分"で運行が可能
●長距離輸送時のコストを削減
●Loose貨物にも対応

株式会社 平野ロジスティクス
Hirano Logistics Corporation
AEO 特定保税運送者

本　社 078-994-0069
成田空港出張所 0476-32-2981
関西支店 072-463-7455
福岡営業所 092-586-8915
関東支店 0476-35-3600
東海支店 0538-42-9480
関西空港営業所 072-456-8470
東京営業所 03-6382-7768
中部支店 0569-38-7208
神戸営業所 078-965-0918
www.hirano-logistics.com

SPACE 12月号
昭和四十六年三月六日 第三種郵便物認可
二〇一九年十二月二日発行（第一月曜発行） 第四十九巻 第十二号
通巻五百八十八号
発行所 株式会社 ジャパンプレス社
発行人 和田 義浩
住所 東京都港区北青山二―十一―二十四〒（〇七〇〇六）
電話 東京 〇三―三四〇四―五一五一（大代表）
定価 一部 一、〇〇〇円（税別）送料八十七円
予約購読 一年間 九、〇〇〇円（税別）送料当社負担

SPACE 2019年12月2日発行 第49巻第12号 通巻588号（第1月曜発行） 昭和46年3月6日第3種郵便物認可 ISSN 0389-4800

月刊 航空貨物専門誌

SPACE

2019 12
Vol.49, No.12 (588)

JP The Japan Press, Ltd. TEL: 03-3404-5151 FAX: 03-3404-5152 www.japanpress.co.jp
定価 1,000円（税別）

特集 低迷の日中貨物；来20年のV字回復は望み薄？

航空貨物業界これに注目 英国のEU離脱問題
混迷劇も最終局面へ；どう出る選挙結果

Logistics Now 平野ロジスティクス
"背高・横幅"の新型トレーラー

最新ニュースをメルマガで配信中
登録は本誌ウェブで！ www.japanpress.co.jp
無　料

LOGISTICS NOW

平野ロジスティクス

“背高・横幅”の新型トレーラー

航空貨物の空港間OLT輸送（保税転送）のリーディング・カンパニーである平野ロジスティクス。いまや同社の代名詞的な存在となっているオリジナル・トレーラーである“＋（プラス）”シリーズだが、このほど“＋1α”に改良を加えた『背高・横幅』対応の新型トレーラーがオランダで初公開された。

フレームを広げて全幅345㎝まで拡張

新型トレーラーは、全長1360㎝×全幅244㎝×全高268.5～300㎝の“＋1α”をベースに開発されている。

「最大のポイントは、トレーラーの全幅よりサイズのある貨物を搭載する際、後方の荷室のフレーム（柱）を外側に広げることで、全幅を拡張できることです」。そう語るのは、益子研一・取締役営業本部長。

フレームを片側45㎝ずつ外側に広げることで、全幅を約335㎝までに拡張することができる。「例えば航空機のエンジンなどを搭載する時には、後方のフレームを広げて積み付け、その後フレームを戻して走行します。半導体製造装置よりもさらにサイズのある貨物にも対応できますよ」（益子取締役）と胸を張る。

同社が＋1αを開発した主な要因は、半導体製造装置の輸送需要に対応することにあるというが、＋1から積載量を増やす以外にも、＋1αにはこれまでにない、新たな機能が導入されている。

貨物搭載部分の構造には、欧州で使用されている幌状のターポリンシートによるカーテン方式（横に開閉する）を導入しており、車両側面から貨物が搭載できることが特長だ。トレーラーの側面が大きく開いて、大型機械の荷役が容易にできるという利点がある。

また、側面だけでなく天井部分もターポリンシートを使用して、スライド式に開く構造となっているため、半導体製造装置のような大型・重量かつ精密な機械の積み降ろしがスムーズにできるというメリットもある。高さも300㎝まで対応可能で、半導体製造装置やフレーターに搭載する大型・背高貨物などの輸送に威力を発揮する。

新型トレーラーは高さ300㎝まで対応可能

「開発を依頼したオランダECK社は、ことしトルコTirsan Solutionsの傘下に入りました。Tirsan Solutionsは年間1万1000台のトレーラーを出荷しています。今回はECK社のオランダ工場に車両を確認しに行きました」と語る益子取締役。「当社の要望通り、幅、高さもきっちり仕上げてくれました。高さは300㎝まで対応可能で、背高貨物やハイパレットコンテナなどが4台積めます。新型トレーラーは、大型・背高貨物への対応にその特性が生かされますね」。

後方のフレームが広がった状態。フレームを片側45㎝ずつ外側に広げ、全幅を約335㎝に拡張することができる。

上写真：新型トレーラーが公開されたECK社・オランダ工場での益子取締役（中央）とECK社の開発・製作スタッフ。左写真：新型トレーラーは＋1αを改良して開発された。すでに17台発注で契約を交わしている。写真は通常の状態。

フレームを片側45㎝ずつ外側に広げることで、全幅を約335㎝までに拡張することができる。「1台でより多くの貨物を輸送できる」、「背高貨物に対応できる」といった仕様に、新たに「横幅のある貨物に対応できる」トレーラーが＋シリーズに加わった。平野ロジスティクスでは、新型トレーラー導入により、さまざまな貨物に柔軟に対応できる車両体制となっている。

新型導入で＋シリーズは45台体制に

平野ロジスティクスは、＋シリーズとして、大型トラックと比べて96インチULDを1台多く搭載できるセミトレーラー“＋1”、同じく2台多く搭載できるフルトレーラー“＋2”、＋1と比べて積載量・容量を拡大した“＋1α”、大型トラックよりLD3コンテナで7台多く積めるダブルデッキ・セミトレーラー“＋7”、＋7に改良を加えて8台多く搭載できる“＋8”の、計5種類のトレーラーを開発し、運行している。

同社はこれまで長さ／2段積み／高さをコンセプトにオリジナル・トレーラーを開発してきたが、今回は“横幅のある貨物にも対応する”ことに焦点を当てたトレーラーが新たにラインアップに加わったわけである。

新型トレーラーは17台契約済みで、12月末からデリバリーが開始される予定。同社は＋1αを3台保有しているので、今回の背高・横幅対応トレーラーと合わせて＋1αが20台、＋1が20台の計40台体制とする計画だ。

益子取締役は「多様なサイズのトレーラーを保有することで、貨物の形状にとらわれず、顧客ニーズにこれまで以上に柔軟に対応できるようになる」と期待を込める。

平野ロジスティクスは、来春からの羽田空港の国際線発着枠増加で、成田～羽田間のOLT輸送量アップが見込まれる中、＋シリーズ・ラインアップを計45台に強化し、OLT輸送増への対応に向けて着々と準備を進めている。

エアブリッジカーゴ

10年ぶり刷新の看板車、成田・中部を拠点に運行へ

エアブリッジカーゴ(ABC)はこのほど、同社の特別ラッピングを施したトラック(以下、看板車)の導入を開始した。

温調貨物に限らず幅広い貨物ニーズ獲得へ

さる11月中旬に都内のホテル敷地内で披露されたABCの看板車は、同社のラッピング・トラックとして10年ぶりに刷新されたもの。車体は96インチULD対応・日野自動車製フルエアサスペンションの10トン車である。

今回ABCは、2台の看板車を作成した。1台は通常どおり車両後方からの貨物積み込みを行う仕様となっているが、もう1台は側面からの貨物積み込みが可能なウイング仕様となっており、床面にはローラーコンベアを搭載、スムーズな荷役を実現する。

また、1台については定温(+15℃～+25℃)輸送に対応する空調機能を備えており、温度管理貨物の輸送にももちろん適しているが、ABCは今回の看板車で、「特定の品目に限らず、なんでも運ぶ。ことし下半期に入り徐々に回復してきた貨物需要を着実に取り込んでいき、看板車を満載にしたい」と意気を上げる。

2台の実運行は平野ロジスティクスが行う。1台は成田を拠点として～羽田／～中部／～関空／～福岡間の輸送を、もう1台は名古屋を拠点に～成田／～羽田／～関空／～福岡間の輸送を、それぞれ担う計画だ。

写真はお披露目当日の模様で、左から、平野ロジの高瀬英二・常務取締役 輸送本部長、ABCの寺嶋亮・シニアセールスマネージャー、平野ロジの田中英治・代表取締役、ボルガ・ドニエプルのコンサルタントを務める佐上勝彦氏、ABCの佐藤晋一・ゼネラルマネージャー ノースアジア、平野ロジの益子研一・取締役営業本部長。